

令和 5 年度 上 半 期 指 定 管 理 者 管 理 運 営 状 況 シ ー ト

●施設の概要

施設名	岩野田児童センター	所管課	子ども未来部子ども支援課
所在地	岐阜市粟野東1丁目95番地		
指定管理者名	社会福祉法人 中部学院福祉会		
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日まで		
選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input checked="" type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	16,825,000円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート造2階建 ◇敷地面積:1,095.03㎡ ◇延床面積:532.42㎡ ◇施設内容:遊戯室、幼児室、集会室兼図書学習室、図工室、おもちゃ図書館、事務室兼静養室、駐車場		

●利用状況

		R5上半期	R4下半期	R4上半期	R3下半期	R3上半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	6,710	6,967	6,352	5,854	4,181
	移動児童館利用者数	335	293	197	216	237
各室稼働状況	移動児童館実施回数(単位:回)	※19(17)	※18(18)	※12(12)	※8(8)	※10(10)
	開館日数(単位:日)	155	151	155	150	93

※実施回数(施設未設置地区実施回数)

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①・⑤ 計画通り実施。事業については、新規事業の実施により、事業計画書記載の実施予定日から一部変更し、実施している。 ② 所長(常勤・児童厚生員)、常勤職員1名(体育指導員・児童厚生員)、非常勤職員4人(※3名が児童厚生員) ③ 児童センターだより「わくわく」を毎月3,000枚発行(※近隣の3小学校全児童、全職員に配付。近隣の4幼稚園、2保育園全園児、全職員に配付。岩野田北・岩野田・常磐地区全自治会員宅へ回覧。近隣の3公民館、岐阜市北保健センター、イベントホール、JAぎふ岩野田支店、生活介護事業所アートフィールド、コンビニエンスストア等に配付、施設内展示)。ホームページへも掲載。指定管理者の広報誌にも児童センターでの行事の様子を掲載。 ④ 児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。また、半期に1度、利用者アンケートを実施。詳細な実態を把握後、課題解決に努めている。アンケート結果と対応を、館内廊下2か所に掲示。
自主事業 提案事業		

施設管理	①施設設備の保守点検の実施 ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	① 適切に実施。 ② 館内清掃を毎朝、全職員で遂行。開館中は、利用者に使用済の玩具を回収箱に入れてもらい、職員が定期的に回収箱を確認、破損等を点検しながら使用された玩具を消毒、利用者が使用できる場所に戻す。オゾン式保管庫も活用。各部屋の出入り口のドアノブ、トイレ便座、トイレスリッパ、洗面台等も、定期的に消毒。閉館前には、使用された玩具や運動用具をすべて各階の1部屋に集め、破損等の点検、その後クローラ水を室内に噴霧、消毒。週2回は、就労促進事業清掃班による館内清掃。トイレスリッパについては、月1回、ハイター消毒液でつけ置き洗浄、消毒。年3回回のワックスがけ・エアコン清掃・ガラス磨き等を委託業者に依頼、徹底清掃。新型コロナ、インフルエンザ、RSウイルス等の感染対策として、上記消毒の徹底、換気、職員・施設利用者の手洗い・手指消毒等、感染防止策を徹底している。 ③ 経費縮減の必要性について全職員で共通理解し、日々勤務する中で、日常業務の一つ一つについて「経費縮減につながる工夫はできないか」「大きな縮減はできなくても、小さな縮減の積み上げが大切」という視点で見直しを進めている。こまめな室温・照明の調節、廃材、新聞・チラシ、裏紙の活用等、全職員で取り組んでいる。備品購入・委託事業等は法人の経営する他施設と一括することで経費の節減を図っている。 ④ 毎朝・夕、施設周りの点検を実施。玩具については、消毒時や片付け時に1日複数回点検。破損がある場合は、おもちゃ病院の方に修理を依頼。屋外遊具の定期点検(年2回)実施。
施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速・適切な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	① 児童センターの屋内・外環境について、安全・安心・利用しやすさ等の視点で見直し、日々改善を進めている。毎日の点検時に発見した箇所については、速やかに職員の手で修繕し、業者対応が必要な箇所については市担当課に連絡、相談、指定管理者(法人本部)とも相談し方針を決め速やかに対応している。 ② 簡易な修繕については、児童センター職員で対応。必要に応じ、指定管理者(法人本部)にも連絡、相談し、迅速・適切に対応している。
危機管理 法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①～③ 適切に実施。 年度当初、全職員で、各種マニュアル、関係法令等について、内容・対応を確認、共通理解している。安全・安心・利用しやすさ等の視点で、日々の業務を全職員で見直し、随時改善を加えている。改善内容については、スタッフインフォメーションファイル等に記録し、全職員に周知することで、事故・苦情等の防止に活かしている。

●利用者評価

利用者アンケートの実施状況	<保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート> 期間: 令和5年6月1日～令和5年8月31日 回答者数: 89人 <小・中・高校生用アンケート> 期間: 令和5年6月1日～令和5年8月31日 回答者数: 106人(小学: 1年8人、2年21人、3年9人、4年20人、5年14人、6年23人) (中学: 1年3人、2年0人、3年8人)(高校: 1年0人、2年0人、3年0人)
利用者アンケートの実施結果	<保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート> 【校区】 岩野田北(35人)、岩野田(21人)、長良西(7人)、常盤(5人)、長良東(3人)、長良(3人)、鷺山(2人)、三輪南(2人)、その他市内(5人)、その他市外(6人) 【年齢】 10代(0%)、20代(10%)、30代(73%)、40代(13%)、50代以上(4%) 【利用頻度】 初めて(15%)、ほぼ毎日(0%)、週2～3回(1%)、週1回(8%)、2週に1回(18%)、月1回(38%)、その他(20%) 【来館相手】 子・孫(96%)、友人(3%)、その他(1%) 【子・孫の年齢】 0歳(16%)、1歳(22%)、2歳(26%)、3歳以上(36%) 【来館方法】 徒歩(20%)、自転車(7%)、自家用車(73%)、公共交通機関(0%)、その他(0%) 【何で知った】 ホームページ(21%)、広報紙・チラシ(8%)、学校(6%)、保育所・幼稚園(6%)、知人・友人(31%)、ぎふし子育て応援アプリ(0%)、ソーシャルメディア(0%)、その他(26%)、無回答(2%) 【評価】 (あいさつ) 満足(79%)、ほぼ満足(13%)、普通(8%)、やや不満(0%)、不満(0%) (言葉づかい) 満足(80%)、ほぼ満足(11%)、普通(9%)、やや不満(0%)、不満(0%) (利用者対応) 満足(81%)、ほぼ満足(12%)、普通(7%)、やや不満(1%)、不満(0%) (利用しやすさ) 満足(63%)、ほぼ満足(22%)、普通(13%)、やや不満(1%)、不満(1%) (整理整頓) 満足(80%)、ほぼ満足(13%)、普通(7%)、やや不満(0%)、不満(0%) (清潔感) 満足(74%)、ほぼ満足(16%)、普通(10%)、やや不満(0%)、不満(0%) (換気) 満足(78%)、ほぼ満足(15%)、普通(7%)、やや不満(0%)、不満(0%)

	<p><小・中・高校生用アンケート></p> <p>【学校名】 岩野田北小(75人)、岩野田小(15人)、岩野田中(11人)、常磐小(4人)、その他市外(1人)</p> <p>【学年】 小学: 1年(8%)、2年(20%)、3年(8%)、4年(19%)、5年(13%)、6年(21%) 中学: 1年(3%)、2年(0%)、3年(8%) 高校: 1年(0%)、2年(0%)、3年(0%)</p> <p>【利用頻度】 初めて(3%)、毎日(3%)、週4・5回(12%)、週2・3回(31%)、週1回(17%)、その他(34%)</p> <p>【来館相手】 ひとり(21%)、友人(65%)、父母(11%)、親戚(0%)、その他(3%)</p> <p>【来館方法】 徒歩(21%)、自転車(53%)、自家用車(26%)、バス・電車(0%)、その他(0%)</p> <p>【好きな遊び】 ドッジボール(15%)、バドミントン(14%)、卓球(10%)、ウノ(7%)、バスケット(6%)、トランプ(6%)、皿回し(5%)、オセロ(5%)、その他(32%)</p>
<p>利用者からの 要望・苦情と 対処・改善</p>	<p><保護者></p> <p>・駐車場が広いと嬉しいです。体験がいろいろできるといいと思います。 ⇒駐車スペースにつきまして、ご不便をおかけしており申し訳ありません。現在、駐車スペースの不足が予測される行事開催日については近隣施設の駐車場をご利用いただけるように、他施設の責任者の方への依頼、連携を進めております。駐車スペースでお困りの際は、児童センター職員にお尋ねください。当該日に利用できる他施設の駐車場をご案内させていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>⇒児童センターでは昨年度から多くの新たな活動を企画し、実施しています。今年度は、幼児クラブ・小学生クラブの内容を利用者の方からいただいたご意見を参考に一新し、他にも、「楽しく親子でパン作り教室」「とうもろこしの収穫、皮むきで食育体験」「鉄道車両パーパークラフト教室」「新聞切り抜き作品づくり」「えだまめ栽培講習会」「ウッドクラフト」「ミニ・ソロ演奏会」「劇団ラッキーキャッツのおはなし劇場」等々、様々な活動を実施しています。活動への参加については、毎月発行するセンターだより「わくわく」でご案内しますので、ご覧いただき、ぜひご参加ください。よろしく願いいたします。</p> <p>・4歳の子がなぜ狭い部屋なのか意味が分かりません。 ⇒新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」になり、就学前のお子様にご利用いただける部屋が増えました。4歳のお子様にご利用いただける部屋は、1階「遊戯室」、2階「幼児室」「図書集會室」です。遊戯室と図書集會室につきましては小学生以上の児童も利用します。よろしく願いいたします。</p> <p>・以前祖母が利用した時、部屋が暑いままで汗だくで遊んでいたといっており、もう二度と行かないと怒っていました。利用者が一人でもみえたら、施設内の様子を少しでも見て回っていただけるとよいかなと思いました。 ⇒施設内の温度管理について対応が不十分な時があり、ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。施設内の冷暖房機器については、開館時から適温設定で稼働させ、いつもご利用いただいても快適な環境でお過ごしいただけるよう準備することを、再度職員全員で確認、徹底しました。今後も、利用環境についてお気づきの点がございましたら、児童センター職員にお声掛けください。よろしく願いいたします。</p> <p>・駐車場に入る時に、外で遊んでいる子どもたちとぶつからないかと心配で怖いです。車も子どもたちも、安全に出入りや外遊びができるといいかなと思います。 ⇒児童センターの運動広場やモルック広場、駐車場付近で遊ぶ時には、駐車場へ車が出入りする間は遊びを中断して安全な場所で待つよう、利用児童には日頃から声掛けをしています。今後も児童への声掛け、活動の様子を見守りを工夫、継続しながら、安全に児童センターをご利用いただけるよう努めてまいります。よろしく願いいたします。</p> <p>・もう少し玩具を増やしてもらえると嬉しいです。 ・2階の幼児室のおもちゃを増やしてほしい。 ・コロナが5類になり落ち着いてきているので、もう少しおもちゃを増やしてほしい。水遊びやボール遊びもできるようにしてほしい。</p> <p>⇒おもちゃにつきましては、新型コロナウイルス感染予防のため、使用後の物はいったん回収させていただき、消毒後、再提供させていただいております。新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」にはなりましたが、RSウイルスやヘルパンギーナなどその他の感染症の流行もあり、おもちゃの消毒につきましては利用者の方の安全・安心を最優先し変更しております。今後も各部屋の利用状況や、おもちゃの使用状況により、使用できるおもちゃの数が少なくなっていることも考えられます。開館中、おもちゃの回収箱の点検を頻繁に行い、消毒した安全なおもちゃをできるだけ早く再提供できるように努めてまいります。ご理解、ご協力をお願いいたします。新しいおもちゃにつきましては、少しずつではありますが順次購入、導入予定です。児童センターにある利用者の方が楽しんで活動できるおもちゃがあれば、センター職員にぜひお声掛け、ご紹介ください。よろしく願いいたします。</p> <p>⇒水遊びについては、利用者の方の安全・安心を最優先し、プール用具や熱中症対策に必要な用具等を揃えた後、実施したいと考えています。よろしく願いいたします。</p> <p>⇒ボール遊びについては広いスペースを必要とする関係上、一定時間(30分)遊戯室を占有する形で行うことは可能です。現在、ドッジボールを楽しむ子どもたちの姿が多く見られます。</p> <p>・使ったおもちゃを消毒するものを各部屋に置いて頂けるとありがたいです。次に遊びにくる子がすぐにおもちゃを使えるように、できる範囲で保護者もおもちゃを消毒できるといいなと思います。 ⇒おもちゃの消毒作業は利用者の方の安全に関わることであり、今後もセンター職員のみで対応してまいります。また、消毒用具の安全管理上の課題もあり各部屋に常備することは難しいと思います。開館中、センター職員がおもちゃの回収箱の点検を頻繁に行い、消毒した安全なおもちゃをできるだけ早く再提供できるように努めてまいります。ご理解、ご協力をお願いいたします。</p>

<児童>

・サッカーはなぜできないのですか？

⇒児童センターには、サッカーボールを使って安全に遊べる十分に広いスペースがありませんので、サッカーボールの導入は今のところ考えておりません。今、センターにある様々な遊具や運動用具を使用して、工夫して楽しく遊んでいただきたいと思います。また、センターでもできる楽しい遊びがあればセンター職員に声を掛けていただけるとありがたいです。教えていただいた新しい遊びの導入、必要な用具の購入も検討したいと思います。よろしくお願いします。

・ゲームを出す。増やしてほしい。

⇒児童センターでやってみたい遊びについて、センター職員にお話しいただくとありがたいです。お話を伺ったうえで、センターへの新しい遊びの導入、必要な用具の購入も検討したいと思います。よろしくお願いします。

・靴箱に置く荷物は、靴の上に置くように伝えてください。

⇒児童センターでは、貴重品は事務室に預け、それ以外の荷物は自分の靴の近くに置いていただくようお願いしています。荷物を置く場所を「靴の上」に限定される理由について、センター職員にお話しいただくとありがたいです。お話を伺ったうえで、すべての利用者の方に安心してセンターを利用していただけるように、環境整備や利用のルールづくりに努めていきたいと考えています。ご理解、ご協力をお願いします。

・遊びに来た時に、会いたい先生に会えないと残念です。たくさん会いたい。

⇒職員の勤務シフト(児童センターで勤務する日、休みの日)の関係で、いつもすべての職員が児童センターに居るわけではありません。職員全員が、センターを利用される皆さんに、あたたかく、優しく、笑顔で接することを心掛けています。会いたい先生以外の職員にも、ぜひ声を掛けてください。よろしくお願いします。

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	①平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	S	S	S
		②情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表 ・広範で適切な情報提供・広報活動の実施	S	S	S
		区分評価				S
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること	③既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業(行事)等の実施	S	S	S
		④利用者ニーズ、苦情などの把握方法、対応方策及びサービスの質を確保するための体制	・利用者アンケートの実施 ・利用者ニーズ・苦情・クレームへの着実な対応・運営への反映	A	A	A
		⑤利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	・移動児童館の実施 ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	S	S	S
		⑥利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	S	S	S
		⑦施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	・過不足ない適正な人数配置、無理のない職員体制	S	S	S
		区分評価				S
		効率性	事業計画書の内容が、管理経費の削減が図られるものであること	⑧指定管理経費の妥当性	・収支計画の妥当性及び適正な予算執行	A
⑨管理経費削減の具体的方策	・管理経費削減に繋がる方策の実施(リサイクルやリユース、節水・節電など)			A	A	A
区分評価				A		
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	⑩組織及びスタッフ(採用予定者も含む)の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員(施設が児童センターの場合は体育指導員)を1人以上配置(このうち最低1人は常勤職員とすること)	S	S	S
		⑪スタッフ(採用予定者も含む)の管理、監督体制	・職員の連携体制、職場環境の整備	A	A	A
		⑫スタッフ(採用予定者も含む)の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	S	S	S
		⑬リスクへの対応方策(利用者の安全確保策、防止策、非常時の対応マニュアルなど)	・危機管理(リスク)や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	A	A
		区分評価				S
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域(以下「地元」という。)の振興、活性化などに貢献できるものであること	⑭地元の法人その他の団体の育成(一部業務の再委託先)、地元住民の活用(雇用又はボランティア等)	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	S	S	S
		⑮地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加(地元行事への参加)又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	S	S	S
		区分評価				S

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

今期の取組み
に対する評価

【公平性・透明性】①

○センター運営上、利用者の思いの把握は重要であり、事前に、小学生以上の児童100名以上、乳幼児・小学生の同伴者100名以上を目標人数に設定し、入館受付時に、すべての来館者に声を掛け、アンケートの趣旨説明を丁寧に言い調査への協力を依頼した。声を掛けたほぼ全員の方に、アンケートの趣旨をよく理解した上で、調査に快く協力していただいた(回答人数⇒児童:106名、保護者:89名)。アンケートの設問の理解に不安がある児童については、センター職員が寄り添い、質問内容をわかりやすく説明しながら、回答記入を進めた。

○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したもののについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。

○岩野田児童センターの運営委員会は、地域の関係機関・団体の代表者20名と、児童センター職員6名、計26名で構成されている。コロナ禍で過去2年間は書面開催であったが、今年度は、感染対策を講じながら7月4日(火曜日)に開催した。日頃から小中学校や母親クラブ等、地域の関係機関・団体との関係づくりに努め、情報交流を密にしてきたことで、岩野田児童センターの運営状況の説明に時間を要さず、その後の意見交流に十分な時間をとることができた。児童センターでこれまで行ってきた子育て支援や新たに始めた事業等について、一定の評価いただくとともに、「センターだよりのデジタル配信」や「中学生ボランティアの募集」への協力など、センター運営支援に関わる提案もいただくことができた。

【公平性・透明性】②

○「利用者アンケート結果・まとめ」を児童センター玄関近くの廊下及び2階廊下の2箇所に掲示している。

○アンケート結果・まとめには、集計結果とともに、利用者からいただいた意見・要望に対する回答をわかりやすく、具体的に明示した。いただいた貴重な意見・要望については、全職員で真摯に受け止め、実現可能な案件についてはできる限り早く利用者の期待に応えられるよう対応策を検討し、実施している。

○児童センターだよりの「わくわく」を、毎月3,000枚発行し、センター利用の促進を図っている。

・エリア内3小学校全児童、全職員に配付 ・エリア内3公民館に配付、館内展示

・エリア内3幼稚園、2保育園及び近隣1幼稚園(※エリア内在住園児多数在籍)の全園児、全職員への配付

・岐阜市北保健センターに配付、施設内展示

・山県市図書館・美術館・歴史民俗資料館、文化の里古田郷欽記念館(※岐阜市内在住者の利用多数)に配付、館内展示

・エリア内3地区全自治会員宅に回覧 ・JAぎふ岩野田支店に配付、施設内展示

・生活介護事業所アートフィールドに配付、施設内展示

・近隣のコンビニエンスストア2店舗に配付、施設内展示

○岩野田児童センターのホームページを活用し、「施設紹介」「児童センターだよりの公開」「ブログによる実施行事の様子紹介」「行事の中止・延期の連絡」「気象警報・強風注意報等発令時の閉館の連絡」等を行っている。

○LINE公式アカウントを作成し、「幼児クラブ登録者」や「V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)の児童」、「各行事参加者」「来館同伴者」等にLINE登録を丁寧に依頼している。LINEを活用することで、児童センターからの連絡、児童センター担当者と利用者との相互連絡等が簡単、迅速にできるようになり、利用者の利用しやすさや児童センター職員との関係づくり、信頼関係構築にもつながっている。

【効果性】③

○全職員で、今年度も児童センターの環境や事務処理、利用者対応等、センターのハード、ソフト両面を例外なく新鮮な目で見直し、随時改善を加えている。「センター内案内掲示や依頼掲示等の一新」「ポスターやパンフレット等の分類、整理」「利用者への支援に必要な職員配置」「利用者支援に必要な専門性に関わる図書整備や職員研修(OJT)」「職員間で情報共有するための支援記録ノート」「遊戯室や図書学習室など、各部屋の使用ルールの見直し(安全・利用しやすさ・活動機会の公平性から)」「玄関や廊下、おもちゃ図書館、幼児室や図書学習室、集会所等の物の配置の見直し(安全・利用しやすさから)」「見直し・改善内容を職員間で情報共有、徹底するためのスタッフインフォメーションファイル」等々、日々実践を進めている。

○今年度、幼児クラブの内容を、子どもの発達・成長につながる「専門的支援」と「継続的支援」の二つの視点で見直し、下記のように変更し、実施している。

・チューリップクラブ(0歳児):経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で各5回、ベビーマッサージを実施する。

・タンポポクラブ(1歳児):経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で、運動遊び(上半期5回)とリトミック(下半期5回)を実施する。さらに、岩野田児童センター職員が講師となって、季節行事等を上・下半期、各5回実施する。

・ヒマワリクラブ(2歳児以上):経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で、リトミック(上半期5回)と運動遊び(下半期5回)を実施する。さらに、児童センター職員が講師となって、季節行事等を上・下半期、各5回実施する。

・スマイルクラブ(1歳児以上・移動児童館):経験豊富な外部人材や児童センター職員が講師となって、運動遊びやリトミック、季節行事等を上半期・下半期登録制で各10回実施する。

○今年度、下記の小学生クラブを新設し、小学生を対象とした事業の充実を図っている。

・将棋クラブ:参加者は、活動時間内に、ペアを替えながらたくさんの対局を行っている。将棋を楽しみながら、よい仲間づくりの場にもなっている。

・写真クラブ:一人1台のデジタルカメラを使い、写真の撮り方を身に付けるとともに、撮影活動を通して地域の魅力や身近な仲間のよさを知る機会、紹介する機会となる場を設定している。

・算数遊びクラブ:算数的学びの要素を取り入れた制作活動と、作品を使った遊びを組み合わせることで、算数を楽しむ機会となる場を設定している。

・クラフトクラブ:万華鏡やLEDランタン作り、牛乳パックをリサイクルした紙漉きでしおり作りなどの活動を通して、ものづくりの楽しさを味わう機会となる場を設定している。

○今年度、新規事業として、「楽しく親子でパン作り教室」「鉄道車両ペーパークラフト教室」「えだまめ栽培講習会」「ミニ・ソロ演奏会&お話し会」「遊びを教え、遊びを一緒に体験するボランティア」等を計画、実施した。

・楽しく親子でパン作り教室:パン作りの指導経験が豊富な外部人材に講師を依頼し、親子を対象として、山県市富富中央公民館の調理室を使用してパン作り教室を実施した。参加者は、「成形→二次発酵→焼成→焼き上がり」の工程を体験した。

・鉄道車両ペーパークラフト教室:岐阜工業高等専門学校の教員の方に講師を依頼し、小中高生を対象に実施した。出来上がった作品は、各自、大切に家に持ち帰った。

・えだまめ栽培講習会:JAぎふ岩野田支店から提案いただき、JAの営農担当の方を講師に、親子を対象として実施した。えだまめの種を蒔いたプランターは参加者が各自で家に持ち帰り、収穫時期まで親子で協力して管理する。

・ミニ・ソロ演奏会&お話し会:地域在住の高校生から提案いただき、親子を対象として、当該高校生の「電子ピアノとマンダリンの演奏」と「絵本の読み聞かせ」を実施した。

・遊びを教え、遊びを一緒に体験するボランティア:友愛会から提案いただき、児童センターのV・わくわく隊(小学生ボラン

ティア隊)が、岩佐ローズガーデンで行われるOneぱくキッチンの夏祭りの準備をお手伝いした。
昨年度新規事業として初めて実施した「トウモロコシの収穫、皮むき&えだまめの収穫で食育体験」「劇団ラッキー・キャッツのおはなし劇場」等は、内容をさらに充実させて今年度も継続実施している。日頃から、近隣地域の外部機関や団体、個人と連携した行事が企画できないか情報収集に努め、交流を深めてきたことで、多くの方の理解と協力を得て様々な行事を開催することができている。

○児童センターでは、遊びや行事を企画したり、遊びを他の利用者に教えたりする小学生を募集し、V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)として位置づけている。年度当初には、隊員の写真を撮り、個人写真入りの隊員バッジを職員と一緒に制作、配付し、隊員全員が来館時に身に着けている。同時に、実施したい行事についても話し合っている。今年度は、「はるかかのひまわりの栽培」や「Oneぱくキッチンの夏祭りの準備」、「V・わくわく農園での野菜づくり」等を行っており、今後は、「はるかかのヒマワリの種の採取」と「はるかかのヒマワリ絆プロジェクトへの種の送付準備」、「V・わくわく農園で育った野菜の収穫体験」等を予定している。

○センター職員に児童が話す、「僕、〇〇、得意だよ。」「私、〇〇、できるようになったよ。」という児童の言葉を受けとめ、児童の得意を、児童の自己有用感の向上や、児童相互の交流・仲間づくりに活かすため、けん玉や皿回し、フラフープやルービックキューブなどが得意な児童を「〇〇先生」として児童センター内で位置づけた。「〇〇先生名札」を作成して児童の「できる」を認め、名札を誰もが見ることができる事務室前に掛けておくことで、「〇〇先生」と「遊びを上達したい児童」との交流の機会が生じやすい環境づくりにも努めている。

【効果性】④

○児童センターではLINE公式アカウントを設定しており、「幼児クラブ登録者」や「V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)の児童」、「各行事参加者」、「来館同伴者」等にLINE登録を丁寧に依頼している。LINEを活用することで、児童センターからの連絡、児童センター担当者と利用者との相互連絡等が簡単、迅速に行え、利用者の利用しやすさや児童センター職員との関係づくり、信頼関係構築にもつながっている。LINEを利用して、LINE登録者が児童センターへ個別に意見や要望を届けることもでき、「利用者の方からの意見・要望→児童センターでの内容把握、対応策の検討→意見・要望をいただいた方への回答→対応策の実施」という改善サイクルを時期を逸せず、より迅速に行うこともできている。

○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したもののについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。

○職員のあいさつや言葉づかい、入館受付や利用案内等について、「明るく・にこやかに」、「親切・丁寧」に対応することを全職員で共通理解し、利用者との関係づくりに努めた。上半期に実施した利用者アンケートでは、職員の「あいさつ」については92パーセント、「言葉づかい」については91パーセント、「利用者対応」については93パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただき、「いつも」「すぐに気付いて」「笑顔で」「優しく」「にこやかに」「丁寧に」「好感がもてる。」「利用者対応がどの方にも平等でよい。」「案内がありがたい。」といった言葉で、センター職員の対応の「よさ」を具体的に評価もしていただいている。

○上半期に実施した利用者アンケートでは、施設の「利用しやすさ」「整理整頓」「清潔感」「換気」について、87～93パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただいた。「利用しやすさ」のみ、やや不満・不満と答えられた方がそれぞれ1名、「整理整頓」「清潔感」「換気」については、やや不満・不満と答えられた方はゼロだった。ほぼ満足・普通・やや不満と答えられた方からは、「駐車場が狭い。」「幼児と小学生と一緒に遊べる部屋が少ない。」という意見もいただいた。アンケート結果のまとめに、施設としての対応とその理由を明示し施設内に掲示、公開するとともに、今後も利用者に対して真摯に対応するよう、職員間で共通理解、意思統一を行った。

・「駐車場が狭い。」という意見に対しての対応

⇒駐車スペースの不足が予測される行事開催日等については、近隣施設の駐車場が利用できるように他施設への依頼、連携を進めている。現在3施設から、駐車場利用可の回答をいただいている。

・「幼児と小学生と一緒に遊べる部屋が少ない。」という意見に対しての対応

⇒新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に変更されて以降、児童センター2階の図書学習室・集会室も、幼児と小学生と一緒に遊べる部屋になっている。図書学習室・集会室前廊下にその旨の案内を掲示するとともに、「ままとセット」を幼児室から図書学習室・集会室に移し、幼児が遊べるスペース「ままと優先スペース(※案内掲示も設置)」をつくることで、「幼児と小学生と一緒に遊べる部屋になった。」という理解を利用者に促すよう工夫している。

○来館された利用者の方に児童センター職員から積極的に声を掛け、関係づくりに努めるとともに、同伴者や小中高生と会話する中でそれぞれの思いやニーズを把握し対応することで、信頼関係づくりにも努めた。乳幼児の同伴者の方からいただいた要望をもとに昨年度上半期に児童センター内に設置した「幼稚園・保育園情報コーナー」については、情報提供量の増加・充実と、利用者の情報活用が進んでいる。また、近隣地域在住の専門家の方の協力を得て設置した「発達・子育て相談」ができる場についても、利用者への周知が進み、活用方法の問い合わせがセンターに届くようになってきた。今年度上半期にも、1名の方が「発達・子育て相談」を利用されている。

○現在、LINEを利用して、LINE登録者から児童センターへ個別に意見や要望を届けていただけるようになっており、「利用者の方からの意見・要望→児童センターでの内容把握、対応策の検討→意見・要望をいただいた方への回答→対応策の実施」という改善サイクルを時期を逸せず、より迅速に行えるようになっている。

○センター利用に関わるルールの理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い火曜日と金曜日については、職員配置を3名(※利用者が特に多い水曜日については4名)とし、1・2階各フロアー、事務室に1名ずつ職員を置き(※水曜日は1階フロアーに2名配置)、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。

また、児童理解、支援の手立てについても、関係専門図書を事務室に購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員数名が講師となりOJT形式で、職員研修を行うなど、対応を進めている。日々行った児童への支援については、記録ノートに記載し、職員間で共有、累積し、その後の支援に活かしている。

○新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に変更されて以降、児童センターでドッジボールができるようになると、来館中、遊戯室でずっとドッジボールをやり続ける児童の姿が頻繁に見られるようになってきた。そこで、誰もが遊戯室で様々な遊びを安心して楽しく体験できるように、遊戯室の利用ルールを下記のように決め、理由を具体的に示しながら子ども達に分かりやすく丁寧に繰り返し説明し、ルールの徹底を図った。

・いろいろ遊びタイム

⇒「皿回し」や「けん玉」、「フラフープ」や「ディアボロ」など、遊戯室全体を使わない様々な遊びをみんなで楽しむ時間。原則1時間。

・〇〇〇タイム(例、ドッジボールタイム、パドミントンタイム)

⇒「ドッジボール」や「パドミントン」、「鬼ごっこ」など、遊戯室全体を使った遊びを楽しむ時間。原則30分。

【効果性】⑤

○児童センターから遠い常磐地区の児童の利用を確保するために、魅力ある活動内容を工夫、準備し、毎月2回以上の開催を原則として、移動児童館事業にも力を入れている。上半期実施回数19回。

【実施回数】4月⇒常磐地区1回実施 5月⇒常磐地区2回、市外(山県市高富)1回実施

6月⇒常磐地区2回、岩野田北地区1回実施 7月⇒常磐地区2回、岩野田地区1回、市外(山県市高富)1回実施

8月⇒常磐地区2回実施、岩野田北地区1回実施 9月⇒常磐地区3回、岩野田地区2回実施

【実施内容】・親子で保育園・幼稚園見学、活動体験(指導者:保育園・幼稚園職員)
・親子でパン作り教室(指導者:外部講師) ・運動遊び(指導者:外部講師、児童センター職員)
・リズムック(指導者:外部講師) ・スタンプ遊び、小麦粉粘土遊び(指導者:児童センター職員)
・えだまめ栽培講習会(指導者:JAぎふ岩野田支店営農担当職員) 等

○職員のみさつや言葉づかい、入館受付や利用案内等について、「明るく・にこやかに」、「親切・丁寧」に対応することを全職員で共通理解し、日々実践を継続している。上半期利用者アンケート回答者の91～93パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただき、センター職員の対応のよさを具体的意見でも評価していただいた。

○児童センター内の各部屋や玩具・遊具等の利用についての案内掲示や依頼掲示等を、利用者に見ていただけるか「理解していただけるか」等の視点で随時評価し、更新している。また、様々な外部機関から掲示、展示を依頼されるポスターやパンフレット等についても、分類・整理して掲示、展示することで、利用者の方が目的のものを見つけやすくなり、多くの方に活用していただいている。

○児童センターのLINE公式アカウントを作成し、「幼児クラブ登録者」や「V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)の児童」、「各行事参加者」「来館同伴者」等にLINE登録を丁寧に依頼した。LINEを活用することで、児童センターからの連絡、児童センター担当者との相互連絡等が簡単、迅速にできるようになり、利用者の利用しやすさにつながっている。LINEを利用して、LINE登録者から児童センターへ個別に意見や要望を届けていただけるようになり、「利用者の方からの意見・要望→児童センターでの内容把握、対応策の検討→意見・要望をいただいた方への回答→対応策の実施」という改善サイクルを時期を逸せず、より迅速に行えるようになった。

○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したのものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くに掲示し、利用者にお知らせしている。

○入館時に事務室内でチャイムが鳴るように機器を設置し、利用者が複数の幼児を連れた幼児親子さんの時など支援を必要とされる場合は、玄関ドアを開け安全でスムーズに入館できるように援助している。退館時にも、同様に玄関ドアの開閉をお手伝いしている。

【効果性】⑥

○児童センターだより「わくわく」を毎月3,000枚発行し、センター利用の促進を図っている。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。

○児童センターのホームページを作成、活用し、「施設紹介」「児童センターだより『わくわく』の公開」「ブログによる実施行事の様子紹介」等を行っている。

○児童センターで作成、管理しているLINEグループを活用して、センターからLINE登録者宛に、センター事業の紹介、参加案内を行っている。

○岩野田まちづくり協議会及び岩野田北まちづくり協議会と連携し、各団体のホームページに児童センターだより「わくわく」を掲載していただいている。

○近隣にある児童発達支援施設、放課後等デイサービス施設等とも連携を図り、参加いただけそうな行事については個別に声を掛け、利用を勧めている。

【効果性】⑦

○岩野田児童センターに現在在籍する職員は常勤2名、非常勤4名の計6名である。そのうち5名が児童センター仕様書に記載されている「児童厚生員」の要件を満たしており、常勤職員1名が「認定児童厚生1級指導員」資格も有している。さらに、幼稚園教諭、保育士、小中高・養護学校教諭等の免許を有する職員が4名在籍し、そのうち3名は、幼稚園、保育園、小中学校での経験も豊富である。今年度4月から、小中学校で40年間勤務し、子どもたちへの指導・支援経験豊富な職員が勤務しており、昨年度から勤務している職員を含め、児童センターの子どもたちへの指導・支援体制は厚くなっている。

○センター利用に関わるルールの理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い火曜日から金曜日については、職員配置を3名(※利用者が特に多い水曜日については4名)とし、1・2階各フロアー、事務室に1名ずつ職員を置き(※水曜日は1階フロアーに2名配置)、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。

【効率性】⑧

○岩野田児童センターの収支管理を担う社会福祉法人中部学院福祉会は、岐阜市の民営化第1号の常磐保育園を経営しており、毎年、岐阜市の監査、指導を受け、適格に予算を執行している。また、中部学院福祉会の理事会が年4回、評議員会が年2回開催され、その都度、収支や施設運営についての確かな指導、助言もいただいている。

【効率性】⑨

○電気料金や燃料費の高騰による経費圧迫を見据え、児童センターでは、経費削減の必要性について全職員で共通理解し、日々勤務の中で、日常業務の一つ一つについて「経費削減につながる工夫はできないか」「大きな削減はできなくても、小さな削減の積み上げが大切」という視点で見直しを進めている。

《具体的実践例》

・作品材料として、牛乳パック、ペットボトルキャップ、ペットボトル容器、各種テープ類やラップの芯、各種ペーパー類の空き箱等を捨てずに児童センターで保管したり、職員が自宅から持ち寄りたりして、安心・安全に配慮しながら、センターで行う行事を低コストで実施できるよう、日々対応している。

・紙ベースで配付していた職員のシフト表や各種連絡事項等を、センター職員のグループラインを活用してデータで配信するように変更、ペーパーレス化を進めている。

・紙ベースで配付していた幼児クラブや各種センター行事への参加案内を、センター利用者のグループラインを活用して、LINE登録者(幼児クラブ登録者、V・わくわく隊の児童、各行事参加者、来館同伴者等)にデータで配信するように変更、ペーパーレス化を進めている。

・赤ちゃんステーションとして利用者に提供する準備をしているミルクのお湯を、電気ポットではなく、保温時間がなく節電につながる電気ケトルで用意している。

・センター利用者がいない場合は、廊下や各部屋の照明を、外光が差さない側の一部のみ点灯しておくようにし、センター利用者の入館しやすさを損なわない程度に節電に努めている。

【安定性・安全性】⑩

○現在、児童厚生員5名、体育指導員1名を配置している。

○岩野田児童センターに現在在籍する職員は常勤2名、非常勤4名の計6名である。そのうち5名が児童センター仕様書に記載されている「児童厚生員」の要件を満たしており、常勤職員1名が「認定児童厚生1級指導員」資格も有している。さらに、幼稚園教諭、保育士、小中高・養護学校教諭等の免許を有する職員が4名在籍し、そのうち3名は、幼稚園、保育園、小中学校での経験も豊富である。今年度4月から、小中学校で40年間勤務し、子どもたちへの指導・支援経験豊富な職員が勤務しており、昨年度から勤務している職員を含め、児童センターの子どもたちへの指導・支援体制は厚くなっている。

る。
○センター利用に関わるルールの理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い火曜日から金曜日については、職員配置を3名(※利用者が特に多い水曜日については4名)とし、1・2階各フロアー、事務室に1名ずつ職員を置き(※水曜日は1階フロアーに2名配置)、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。

【安定性・安全性】⑪

○今年度、小中学校で40年間勤務した非常勤職員1名(月20日勤務)が新たに勤務している。前年度から勤務している所長(常勤)と非常勤職員1名(月9日勤務)に新たに勤務したこの職員を加え、この3名を中心に全職員で、今年度も児童センターの環境や事務処理、利用者対応等、センターのハード、ソフト両面を例外なく新鮮な目で見直し、随時改善を加えている。「センター案内掲示や依頼掲示等の一新」「ポスターやパンフレット等の分類、整理」「利用者への支援に必要な職員配置」「利用者支援に必要な専門性に関わる図書整備や職員研修(OJT)」「職員間で情報共有するための支援記録ノート」他にも、「遊戯室や図書学習室など、各部屋の使用ルールの見直し(安全・利用しやすさ・活動機会の公平性から)」「玄関や廊下、おもちゃ図書館、幼児室や図書学習室、集会所等の物の配置の見直し(安全・利用しやすさから)」「見直し・改善内容を職員間で情報共有、徹底するためのスタッフインフォメーションファイル」等々、日々実践を進めている。特に、増加傾向にある発達に課題を抱え、配慮を必要とする児童の理解、支援の手立てについては、関係専門図書を事務室に複数購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員数名が講師となり、日々OJT形式で、職員研修を行うなど、対応を徹底している。日々行った児童への支援については、上記の支援記録ノートに記載、累積し、その後の支援に活かしている。さらに、非常勤職員が4名在籍し、それぞれの毎月の勤務日数が3日～12日と少ない状況での連携は課題であり、「常勤職員と非常勤職員との連携を密にすること」「支援記録ノートやスタッフインフォメーションファイルへの記載を実践につながるよう理解しやすい内容とすること」等、職員間の日々のコミュニケーションや、コミュニケーションツールを工夫・活用することで、課題改善、職員連携体制の構築、充実を図っている。

【安定性・安全性】⑫

○「遊びによる子どもの育成」「子どもの居場所の提供」「配慮を必要とする子どもへの対応」等、児童センターが担う業務と関わる専門図書を事務室に複数購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員数名が講師となり、日々OJT形式で職員研修を行うなど、対応を徹底している。日々行った児童への支援についても、それぞれ専用の記録ノートに記載、累積、全職員で共有し、その後の支援に活かしている。

○今年度、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に変更されて以降は、これまで控えていた集合形式で行われる研修会についても、業務日程を調整し、積極的に参加している。

- ・第22回 ぎふLD・ADHD等学習会 「子どもの育てにくさの理解と支援 — 幼児期から学齢期の移行を中心に」
- ・2023年度 実習教育研修会 「幼稚園・保育実習評価表の現状と今後の動向」
- ・岐阜県要配慮者利用施設避難確保計画作成講習会
- ・令和5年度 岐阜県子育て支援事業従事者等研修 「子育て支援策のこれからと地域における子育て支援の役割」
- ・令和5年度 岐阜保育研究会 「保護者のための実践講座」等

【安定性・安全性】⑬

○市の方針にもとづき作成、活用している「非常災害対策計画」を年度当初に見直し、必要な修正を加え、緊急時に対応できるよう職員研修を行い、その内容について全職員で共通理解した。

○年度当初、岩野田児童センターの「社会福祉施設避難確保計画」をもとに、緊急時に対応できるよう職員研修を行い、その内容について全職員で共通理解した。

○今年度、「岐阜県要配慮者利用施設避難確保計画作成講習会」にセンター職員が参加し、研修内容をもとに、現在、当該職員が中心となって岩野田児童センターの「社会福祉施設避難確保計画」について評価と改善を進めている。

○新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に変更はされたが、岐阜圏域でその感染者数は増加傾向にあり、RSウイルスやヘルパンギーナなどその他の感染症の流行もみられるため、これまで実施してきた感染症対策を基本に対応を職員で共有、徹底している。特にセンター職員及びセンター利用者の体調確認、手洗い・消毒、換気等、基本的感染対策については確認と働き掛けを徹底して行っている。

○児童センター内外を、「リスク防止」の視点で点検、確認し、事故の未然防止に努めている。新型コロナ等感染防止のための消毒・換気、玩具・運動用具・遊具等の安全点検、コーナークッションの貼付、コンセントカバーの取付、運動用具保管方法の見直し、事故防止のための注意喚起掲示の工夫・設置等、「まだ、すべきことがある」という意識で、全職員で、リスク防止、対応に努めている。

○上記のマニュアルの他、センターで作成済の各種緊急時対応マニュアルについては、事務室内の確認しやすい場所に保管している。また、運動事故対応や新型コロナ等感染対応等については、対応のポイントをまとめたものを、職員がすぐ手に取りやすい場所に置き、職員の自己研修と危機管理に対する意識、対応力の向上を図っている。

【貢献性】⑭

○岩野田まちづくり協議会、岩野田北まちづくり協議会との交流を図り、各協議会のホームページの回覧板の中に、児童センターだより「わくわく」を掲載していただいている。

○「たからばこ」「おはなしポケット」「ココのおはなし」「おもちゃ病院」等、地元の諸団体の方に、定期的に活動をしていただいている。各団体の活動予定については、活動日の前月に発行する児童センターだより「わくわく」に掲載し、紹介している。

○児童センターだより「わくわく」を、毎月、外部機関・団体の協力を得て、配付、回覧、施設内展示をしていただいている。毎月、3,000枚発行している。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。

○毎月発行する児童センターだより「わくわく」の配付を所長自ら行い、各機関・団体の代表者の方に直接手渡しするとともに、個別に面談できる場を設定し、意見交換、情報交流を行っている。

○今年度、新規事業として、「楽しく親子でパン作り教室」「鉄道車両ペーパークラフト教室」「えだまめ栽培講習会」「ミニソロ演奏会&お話し会」「遊びを教え、遊びを一緒に体験するボランティア」等を計画、実施した。詳細は【効果性】③に記載済み。

○岩野田北子ども会から依頼を受け、岩野田北地区インリーダーを対象にした制作指導「プラ・ロケット作り」を、子ども会役員と一緒に行った。

○岩野田青少年育成市民会議家庭部会から依頼を受け、幼児親子(対象児童年齢:0歳、1歳)を対象にして、「親子ふれ合い遊び」と「絵本の読み聞かせ」を行った。

○放課後等デイサービス、児童発達支援、児童養護施設等と連絡を取り合い、児童センターを利用していただいている。

○児童センター近くにあるにグループホームの夏祭りの準備と運営に、V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)11名が協力した。

【貢献性】⑮

○新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に変更はされたが、岐阜圏域でその感染者数は増加傾向にあり、RSウイル

	<p>スやヘルパンギーナなどその他の感染症の流行もみられるため、地元行事への参加については「参加者の安全・安心」を最優先に、慎重に判断し決定している。今年度上半期は、児童センターのV・わくわく隊(小学生ボランティア隊)が、岩佐ローズガーデンで行われるOnelぱくキッチンに参加し、夏祭りの準備と運営をお手伝いした。</p> <p>○まだ十分には地元行事への参加ができていない状況を補完するため、毎月発行する児童センターだより「わくわく」の配付を所長自ら行い、地元の各機関・団体の代表者の方に直接手渡しするとともに、個別に面談できる場を設定し、意見交換、情報交流を密に行っている。</p> <p>○岩野田まちづくり協議会、岩野田北まちづくり協議会との交流を図り、各協議会のホームページの回覧板の中に、児童センターだより「わくわく」を掲載していただいている。</p> <p>○今年度、新規事業として、「楽しく親子でパン作り教室」「鉄道車両ペーパークラフト教室」「えだまめ栽培講習会」「ミニ・ソロ演奏会&お話しの会」「遊びを教え、遊びを一緒に体験するボランティア」等を計画、実施した。詳細は【効果性】③に記載済み。</p>
<p>前回までの意見を踏まえた取組み状況</p>	<p>○センター運営上、利用者の思いの把握は重要であり、事前に、小学生以上の児童100名以上、乳幼児・小学生の同伴者100名以上を目標人数に設定し、入館受付時に、すべての来館者に声を掛け、アンケートの趣旨説明を丁寧に行い調査への協力を依頼した。声を掛けたほぼ全員の方に、アンケートの趣旨をよく理解した上で、調査に快く協力していただけた(回答人数⇒児童:106名、保護者:89名)。アンケートの設問内容の理解に不安がある児童については、センター職員が寄り添い、質問内容をわかりやすく説明しながら、回答記入を進めた。</p> <p>○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したもものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。</p> <p>○今年度も、新規事業として、「楽しく親子でパン作り教室」「鉄道車両ペーパークラフト教室」「えだまめ栽培講習会」「ミニ・ソロ演奏会&お話しの会」「遊びを教え、遊びを一緒に体験するボランティア」等を計画、実施した。詳細は【効果性】③に記載済み。</p> <p>○児童センターから遠い常磐地区の児童の利用を確保するために、魅力ある活動内容を工夫、準備し、毎月2回以上の開催を原則として、移動児童館事業にも力を入れている。上半期実施回数19回。詳細は【効果性】⑤に記載済み。</p> <p>○児童センターだより「わくわく」を、毎月、下記の外部機関・団体の協力を得て、配付、回覧、施設内展示をしていただいている。毎月、3,000枚発行している。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。</p> <p>○毎月発行する児童センターだより「わくわく」の配付を所長自ら行い、各機関・団体の代表者の方に直接手渡しするとともに、個別に面談できる場を設定し、意見交換、情報交流を行っている。</p> <p>○現在、LINEを利用して、LINE登録者から児童センターへ個別に意見や要望を届けていただけるようになっており、「利用者の方からの意見・要望→児童センターでの内容把握、対応策の検討→意見・要望をいただいた方への回答→対応策の実施」という改善サイクルを時期を逸せず、より迅速に行えるようになってきている。</p>
<p>今後の取組み</p>	<p>○下半期も継続して近隣地域の外部機関や団体、個人と連携した行事が企画できないか情報収集に努め、利用者のニーズに合った行事を企画、開催していきたい。上半期新たに実施した行事に加え、「干し柿づくり」、「そば打ち」など、地域の様々な人と連携した行事を実施につなげ、ブログ等でも紹介しながら、児童センターとの連携について地域の理解をさらに広めていきたい。</p> <p>○下半期も継続して、V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)の活動の充実を図ってきたい。V・わくわく隊が作成した「遊び(皿回し)のコツを紹介する動画」の活用を推進したり、作成途中の「児童センターの利用の仕方や利用する上でのルールを紹介する動画」を仕上げ活用につなげたりすることで、V・わくわく隊のメンバーの達成感とボランティア活動への意欲をさらに高め、次に計画している、JAぎふと連携してV・わくわく農園で行うさつまいもの収穫祭につなげていきたい。</p>

●所管課の意見

○幼児クラブの内容を見直し、外部の専門家に講師を依頼したり、小学生のクラブ活動を新設したりするなど、幼児対象、小学生対象ともに業務改善や新規事業の実施に努めている。

○職員の保有資格や学校等での経験がある職員を多数配置するなど、職員の資質や知識が豊富である。

○地元の各種団体や住民に講師を依頼し、パン作りの教室や演奏会などといった多岐にわたる事業を実施するなど、地域と連携、協働して事業を実施することができている。

●指定管理者評価委員会の意見

所管課の意見のとおり、適切に管理運営されている。岩野田児童センターはクッキング講座など講師に依頼して様々な取り組みをしている。今後も民生委員や児童委員、地元の各種団体等と連携を深めて継続して行っていただきたい。